

令和4年度 第2回学校協議会 会議録

1 日 時 令和4年12月5日(月) 18時30分

2 場 所 産業高校会議室

3 出席者

(1) 学校協議会委員 (50音順 敬称略)

産業高等学校元PTA会長 池内 美智子

岸和田市立中学校校長会会長 池内 容子

産業高等学校同窓会副会長 北野 好美

JFE継手株式会社 信貴 政則

産業高等学校PTA会長 吉田 なおみ

(2) 学校(事務局)

校長 大西 敦子

全日制教頭(司会) 安井 孝

定時制教頭 榎本 正広

全日制教務部長(首席) 齋藤 良房

事務長(記録) 田中 幸博

4 次 第

(1) 校長挨拶

学校では、産高祭、文化祭・体育祭を全定共に無事終了することが出来ました。3年生の就職も、今年は今までになく、11月の段階で希望者全員内定をいただきました。定時制も順調に内定をいただいていると聞いています。また進学の方はピークを越えたぐらいで、生徒達は頑張っています。2学期はあっという間で、心配していたコロナで学校を閉じるということもありませんでした。

本日の協議会の内容は、学校の成績や日々の出欠状況、あるいは生徒の個人情報に関すること等事務的な処理をコンピューターのシステムを使って処理をするという話になります。少し分かりにくい内容になると思いますが、こういう取り組みをしているということを知っていただけたらと思います。どうぞ本日はよろしく願いいたします。

(2) 会長挨拶

今日は、先ほど校長先生からお話がありましたように、校務処理システムの導入についてです。私も会社ではシステム管理をしていますので詳しい内容を質問させて頂きながら進めさせて頂きたいと思っています。最後までお付き合いよろしく願いします。

(3) 議案

「校務処理システムの導入によるメリットと今後の課題について」

◇全日制（齋藤首席）

- ・校務システム導入までの経緯：本校では従来、教員が作成した表計算ソフトの簡単なシステムを用いて、成績処理、通知表作成・審議資料出力・調査書・指導要録作成までをこなしてきた。これは、旧教育課程に対応したものであり、府立学校と違って成績に関するシステムを供与されていない以上、今回の指導要領変更に伴っての校務システム導入は急務であった。
- ・候補となった数社のシステムから、今回は株式会社システムディのスクールエンジンというシステムを採用している。会社は京都にあるが、リモートでのサポートにも対応してくれており、全国導入実績も 2,300 校と、クラウド型校務支援システムトップシェアであることやシステムの柔軟性・価格等も考慮しての導入である。
- ・全日制・定時制共通の研修を数回経たうえて、4月の稼働までに何度も問い合わせを行い、現在の導入に至っている。
- ・主な業務としては、生徒データ（氏名・住所をはじめとするデータ等）管理・日常の出欠管理と成績管理である。このうち出欠に関しては、基本的に毎日の出席を入力することになるが、次年度以降を見越して全学年・全教員で実施してもらっている。一方成績入力に関しては、旧課程である現2・3年生は現行のシステムでの対応とし、1年生にのみシステムを使用しての成績処理を行っている。
- ・導入に際しては、全職員対象に職員会議等にて画面を用いてのレクチャーを行い、各分掌のICT委員と教務担当でフォローしている。
- ・導入によるメリットは、まず、システム設計をアウトソーシングしたことによる教職員の負担減があげられる。
- ・つぎに、今まで教務だより等で逐一教務部と担任がチェックしていた出欠状況の管理が、日々の担任と教科担当によるチェックによって不要になったこと。
- ・さらに、成績入力についても教科担当が責任をもって入力することで、教務部によって行われてきた管理が不要になる点。さらに指導要録の出力までがカバーされている点など、教職員の業務を軽減しつつ業務の精度を上げることに貢献している。
- ・システム運用上の課題：現在、校務システムの仕組みについてサービス会社と連絡し、実務に携わっているのは教務主任と情報科長だけである。1年間の運用を終えてみないと何とも言えないが、年度始まりの膨大な作業量を考慮するなら、校内でシステムを扱える人員の増強は急務である。
- ・本校に即したカスタマイズは特に行っていないため、随所において現行のルールをシステム側に合わせる、ということが発生している。自習の扱いや通知表に並べる項目数・代替科目についての指導要録の出力様式など、今後検討が必要になるかもしれない。
- ・システム導入には本来関係ないことかもしれないが、新学習指導要領の成績入力項

目が増えたため、入力負担が増えた。(ともなうて間違いも発生したため、2学期から対策を立てて対応している。)

◇定時制(榎本教頭)

- ・定時制もほぼ全日制と同じシステムが入っている。全日制と定時制の大きな違いは、定時制は普通の科目とあわせて通信制の科目をもっていることである。
- ・3年間で卒業させるために、いわゆる定時制の普通の科目、それにあわせて通信制の科目があり、この2つを同じシステムにのせることが難しいということで、現在まだ調整していただいている最中で、成績処理に関しては、定時制はまだ動いていない。
- ・ただ、早くシステムに慣れていかないといけないので、出席簿に関しては日々コンピューターに入力をしている。近々システムが完成するのを期待している。
- ・30数年前の教員になった頃は、まだコンピューターが普及していなかった。何もかもが手書きであった。
- ・まず教科担当から手書きで書かれた成績が担任の元にくる。担任はそれをすべて一覧表という大きな表に書き写して合計や平均、最高点や最低点を出したり、欠点は赤でマルしたりとか、そういう作業をしていた。それをもとに成績表を手書きで作っていた。5段階の成績のゴム印を押したことも記憶にある。
- ・そういう時代から、パソコンがすぐに普及したが、成績処理ソフトがなかったもので、ベーシックという言葉を使ってプログラムを書いていた。そういう時代が結構長い間続いた。そのあと表計算ソフトが出て少し成績処理が楽になった。そのうちデータベースも出てきて、統合的に成績処理が使えるようになった。
- ・いずれにしても、システムというのは各学校で作るものであった。学校によってシステムが違うので学校を転勤するとまた違うシステムになる。システムを作る人間が転勤すると、それが動かなくなる。それが府立高校で問題になり、だいたい10年ぐらい前に校務処理システムが入った。安定して動き出すまでに2、3年かかったというふうに聞いている。本校も安定して動くまで少し時間がかかるのかなとは考えている。
- ・今まで色々な先生が個別に作っていた成績を処理するためのシステム、指導要録のためのシステム、調査書のためのシステム、そういうものが統合的に扱える。1回入力したデータが何度でもいろんな形に変えて、帳票を出せたりという面で非常に便利なシステムを入れていただいたなと考えている。ただ危惧しているのは、このシステムが動かなくなることはないと思うが、手書きに戻らないとだめなときに、果たして手書きに戻れるのかという不安はある。

○質疑応答

(事務局) 補足説明 2・3年生に関しては、今はまだこれを使っていなくて、出欠だ

けは試しにしているようですが、基本的には今年の1年生のカリキュラムが新しくなり、指導要録が変わって、観点別という評価の方法が入ったタイミングでシステムを導入していただきました。

今の2・3年生もそうですが、出席簿がクラスごとにあります。それを教室に持って行って、いない生徒のところに斜線をいれます。授業の時も出席簿を持って行って、いない生徒のところに斜線をいれます。朝から欠席と聞いている時は、担任が全部欠席のマークを入れますが、中々連絡がとれないとか遅刻をするけどもいつ来るかわからないというような時には、教科担当が斜線を1本ずつ入れていきます。それが月曜日から金曜日まで1週間たったら集計します。1ヶ月分の集計がでると、教務の担当者が1人ずつクラスの出席簿を確認して一覧表に入力をするというような作業をしていました。2・3年生は今もその作業をしていますが、今回このシステムを入れたことによって、教科担当と担任が直接入力することになり、その作業の必要がなくなりました。

出欠だけをとらえると、こうした便利さが得られたということになりますが、教科の先生の時間割を、教務の担当者で前もって入れておく作業が必要になります。また時間割が変更になった時には、システムに前もって変更となったところを入れておかなければいけないのです。出席簿の場合はそこに行って書けばよかったのですが、システムを使うことによって、入力する作業が前もって必要になり、その担当者がまた必要になってきます。

使う方は便利になりましたが、それを便利に使うための作業がプラスアルファでできています。トータルで言うと、きっと便利になっていると思いますが、個々の作業が増えた先生も現にいます。

最終的に、生徒個人の指導要録という保管する書類があるのですが、今までは、部活動のファイル、出席のファイル、検定の情報など色々なファイルを担任で全部かき集めて、一つの指導要録のファイルにデータを流し込み、印刷をして指導要録にしていました。所見欄に関しては手書きですが、そういう作業もここに入力することで一元化されます。そういった便利なシステムが導入されました。

(委員) 中学校はどうか。

(委員) 中学校は、夏に教員のパソコンがまず入れ替わりました。校務支援システムが12月1日から入りまして、4月から一斉にということなので確実に仕事は増えます。

(委員) 中学校は、先生に一人一台のパソコンは供給されていますか。

(委員) 非常勤以外は一人一台で、教室にも持っていきます。逆に生徒に一人一台端末が入ったので、それがちょうど使えるようにという形ですね。

- (委員) 産業高校も、先生に一人一台ありますか。
- (事務局) はい。
- (委員) 運用に関してはなかなか厳しそうですね。
- (事務局) 今まではエクセルの、ただ単なる表計算ソフトにあるデータでしたので、とりたい放題、加工もできましたが、今度のシステムは、特定のUSBを差し込みまして、IDとパスワードを入力して初めて接続できるという仕組みをとっています。ですので、システムに入るのがまず煩雑ですし、入ってからも、入力した自分のデータは取り出せません。紙としては出せますが。セキュリティ面が昨今の情勢を受けて非常に強くなっている以上、簡単にシステムを扱うということができません。そこで本校では、誰もがアクセスしやすいように、今まで共用で置いていた職員室の一台のパソコンについては、朝から個々の番号を入れればログインできる状態にしてあり、迅速に校務システムのパソコンが使える状態にしています。
- (委員) データの流出という点が一番神経を使ってもらわないと、個人情報の塊ですから。常に気をつけるようにしないといけない。
- (委員) ほとんどの先生方はできますか。苦手な方はいますか。
- (事務局) 苦手な先生方は、たくさんいます。またそれぞれの分掌で、好きで得意な先生方もいます。
- (委員) 良い面もあるが、やっぱり、温かみが少しなくなると思います。
- (委員) それでも、所見は文字で打ちますよね。そこは残しますよね。ABCだけじゃないですよ。恐らく苦労されるのは、評価だと思います。昔、小学校で、できる、できないという評価があったり、ABCの評価があったり、10段階の評価があったりで、どんなパッケージかわからないですが、そこに変換するというのはまず大変だと思います。あと、過去データをどれだけまとめて打てるかというのが、たぶん中学校も一緒だと思いますが、12月に供給されて、4月からのデータをどうするか。これは結構な時間がかかりますよね。
- (事務局) 危惧しているところは、今までは、手書きのものを手書きで転記しますので、書いている先生が途中でおかしかったらおかしいと分かります。ところが、入力したデータをコピーして貼り付ける作業になると、ひょっとしてそのデータは、定期考査のデータではなくて小テストのデータかもしれないけれども、それを間違えて貼り付けたとして、誰もそれを指摘する、気づくことがないので、教科の先生が貼り付けたものについて、ほんとにそのデータは正しい成績のデータであるかどうかをチェックする機能がひとつ必要なのかもしれないですね。他校のお話を聞いていますと、成績の入力をするときは必ず2人以上で入力をするところもありますので、そういったことを参考にしながら、今の段階ではこの1年試行錯誤しています。最終的に先生

方がミスなく、そして業務も負担が少なく、きちんと精度高くできるというのが目標ではあります。

(委員) 最初、我々はまず書きますよね。まず書いてそれを打つから、瞬間仕事が倍になります。慣れるまで数年かけてやるような感じですね。

(事務局) 私もアナログのほうなので、まず書いて、それを入力して、何回も確認しますが、直接打たれる若い先生方も結構いますので、そこは確認をおろそかにしないように徹底しないといけないと思います。テストでも、採点して教務手帳にまず書いて、それを見ながら入力して、テストと入力したのを見比べて、もちろん教務手帳に書いたのを見比べていましたが、テストをそのまま入力して、出力したものと見比べるやり方をする先生も居ます。そこは確認をしっかりしてもらわないとだめだというのは痛感しています。本当に便利にはなっているのかもしれませんが、アナログ人間にしてみると、心配要素が増えています。

(委員) これはいわば、電子カルテみたいなものですから、一旦入力だけすれば、30年前のデータもすぐ見られます。絶対そういう意味では効果はあると思います。最初が大変ですよ。決め事が多くてね。一から言ったとおりの産業高校専用のものが作れたらいいけれど、元々できているものに産業高校が合わせていかないとだめという苦しみがありますね。

(事務局) 今までのものは自分が作ったものですから、ここがおかしいなとすぐにわかりますが、今度は業者のものですから、こういうことがしたいがどうすればいいのかと逐一聞くことになります。

(委員) これを導入して落ち着いてきたら今の先生方の負担はかなり軽減されそうですね。

(事務局) そうですね。今はアナログとデジタルが両方動いていますので、先ほどの話にあるように、作業としては倍になる感覚です。

(委員) 例えば、試験なんかは全部アナログで手作業ですよ。その試験の数値を出すのに、機械でできないのかなと思います。

(事務局) 東京都の入試はマークカードになっているようです。

(委員) マークシートみたいなものですよ。そういうふうになっていけば、先生方の残業問題とか、精神的にしんどくなってきたとか、先生方の負担をいかにして軽減するか、どこに一番負担がかかっているかは我々勿論わからないですが、その部分を一部でも軽減できたら先生方は余裕を持った仕事ができるのではないかと思います。先生方も大変だと思います。家に持って帰ってまで仕事をしているとはよく聞きましたけど。その辺も軽減できたらいいですね。

(事務局) こういうシステムを入れることによって、持って帰ってまで今までしていた

のが、持って帰れなくなるというのがあります。勿論個人情報を持って帰らなければいけないので、そこは考えようですが、個人情報を持ち出せない状態にしてしまわないといけないという部分もあるし、働き方改革と言われていきますけれど、果たして、その結果働き方改革につながっているのかなという部分もあります。細かい目で見たら恐らく軽減されるとは思いますが、準備をする先生はものすごく時間がかかっています。このシステムを4月に走らせることが出来るためには、3月中に準備をしなければいけない。その準備をするには、大勢で出来ないのでは、やはり何人か、今は2人でやってもらっていますが、その先生にもものすごい負担がかかっている事実もありますので、便利になったのか、そうでないのか、その辺が難しいところですね。

(委員) 家に持って帰ってという話がありましたが、USBを家に持って帰る途中で寄り道して紛失したという事件もほんとはよくありますので、その辺の対応はできていますよね。今までの話ですと、まずそういうのは出来ないですよ。この学校のネットワークでしか使えないということですよ。

(委員) 年配の先生方は大変ですよ。

(事務局) 年配の先生もいやおうなしにこれをしてもらわないとだめな状況になるので、そこは負担が増す部分かもしれないです。仕事量というよりも、精神的に、これを間違いなくやらなければいけないという負担が特に増すだろうと思います。

(委員) 学校のために頑張ってください。

定時制も大変ですよ。そもそも評価の仕方とかね。そこは大変だと思います。

(事務局) 教科がいわゆる普通の教科と通信制の教科の両方があって、両方が合わさって通知表に成績が載ります。両方合わさって、卒業できるとか進級できるとか決まりますが、そもそも違う課程のものなので、それを一緒にして成績処理をするのが、システム上少し難しいようです。だから通信の方は、当初はできない話もあったみたいですが、そうすると導入するメリットがないので、今改修してもらっている最中です。

(4) その他

◇安井教頭

ありがとうございます。次回ですが、3学期の後半ぐらいを予定しています。それでは、令和4年度第2回学校協議会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

19時15分終了